

札幌市の「こども」
— 「こどもの日」にちなんで —



平成 21 年 4 月

札幌市市長政策室政策企画部企画課

「こどもの日」を迎えるにあたって、札幌市の「こども」に関する各種統計データを、トピックスとして取りまとめましたので、その内容をご紹介します。

1 札幌市の年少人口

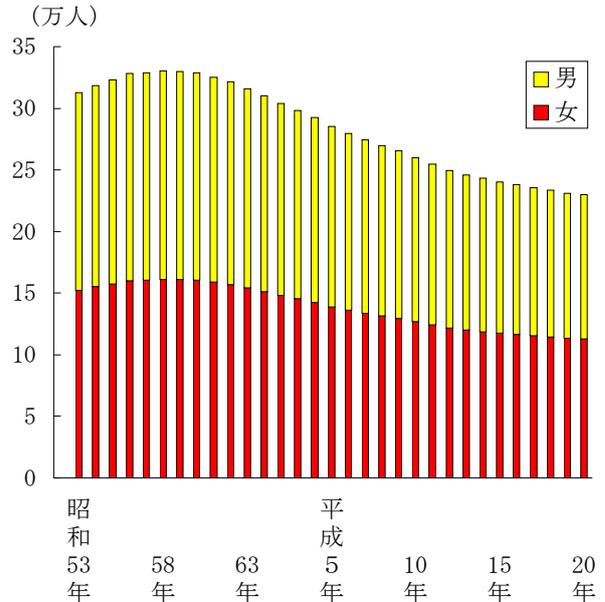
年少人口は昭和 58 年をピークに減少

各年 10 月 1 日現在の住民基本台帳による「年少人口」（15 歳未満）をみると、平成 20 年は 229,655 人となっている。内訳をみると、男性 116,850 人、女性 112,805 人で、性比 103.6（女性 100 人に対する男性の割合）と、男性の方が多い。総人口における性比は 89.5 と女性の方が多いが、年少人口においては逆転している。

年齢別に集計を始めた昭和 49 年以降の推移をみると、年少人口は 58 年（33 万人）をピークに減少を続けており、総人口に占める割合も、51 年（24.0%）をピークに減少を続けている。ピーク時は、ほぼ 4 人に 1 人が年少者だったが、現在は 8 人に 1 人程度となっている。

第 1 図 住民基本台帳による年少人口の推移

（各年 10 月 1 日現在）



<資料> 市長政策室政策企画部企画課

第 1 表 住民基本台帳による年少人口の推移

年次	各年 10 月 1 日現在			総人口に占める割合 (%)
	総数	男	女	
昭和 50 年	290,869	149,228	141,641	23.9
51 年	299,804	153,738	146,066	24.0
52 年	306,702	157,162	149,540	23.9
53 年	312,620	160,177	152,443	23.8
54 年	318,216	163,121	155,095	23.6
55 年	322,857	165,666	157,191	23.4
56 年	328,379	168,434	159,945	23.2
57 年	329,000	168,576	160,424	22.8
58 年	330,166	169,119	161,047	22.4
59 年	329,878	169,015	160,863	21.9
60 年	328,654	168,265	160,389	21.5
61 年	325,299	166,488	158,811	21.0
62 年	321,302	164,445	156,857	20.3
63 年	316,078	161,868	154,210	19.7
平成 元年	309,939	158,720	151,219	19.0
2 年	304,042	155,760	148,282	18.3
3 年	297,989	152,716	145,273	17.7

<資料> 市長政策室政策企画部企画課

年次	各年 10 月 1 日現在			総人口に占める割合 (%)
	総数	男	女	
平成 4 年	292,507	149,962	142,545	17.1
5 年	285,426	146,510	138,916	16.6
6 年	279,400	143,336	136,064	16.1
7 年	274,404	140,735	133,669	15.7
8 年	269,789	138,259	131,530	15.3
9 年	265,683	136,203	129,480	14.9
10 年	260,065	133,275	126,790	14.5
11 年	254,567	130,381	124,186	14.1
12 年	249,649	127,780	121,869	13.8
13 年	245,929	125,837	120,092	13.5
14 年	243,119	124,314	118,805	13.2
15 年	240,481	122,770	117,711	13.0
16 年	238,013	121,451	116,562	12.8
17 年	235,427	119,946	115,481	12.6
18 年	233,266	118,670	114,596	12.4
19 年	230,763	117,495	113,268	12.3
20 年	229,655	116,850	112,805	12.2

2 札幌市の出生数・合計特殊出生率

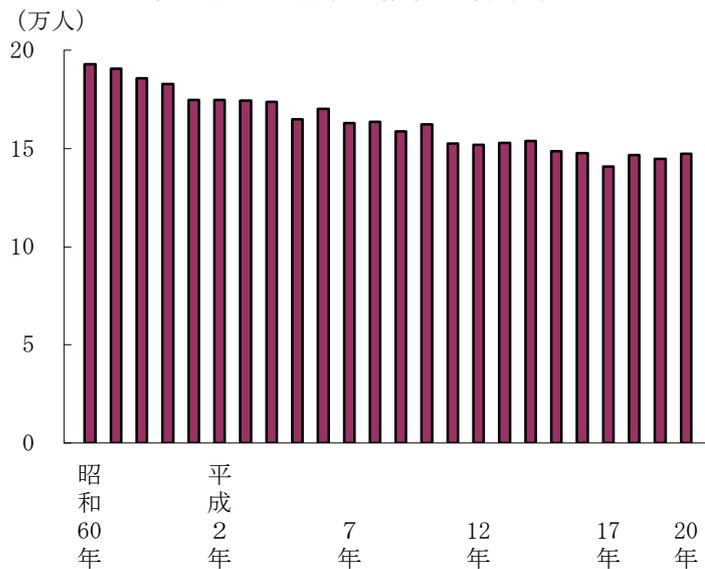
合計特殊出生率は北海道・全国を大きく下回る

政令指定都市移行（昭和47年）後の住民基本台帳による出生数の推移をみると、49年（24,599人）をピークに減少傾向を示しており、平成20年は14,739人と1万人近くも減少している。

合計特殊出生率の推移をみると、こちらも昭和49年（1.89）をピークに減少傾向を示しており、平成19年には1.02となっている。

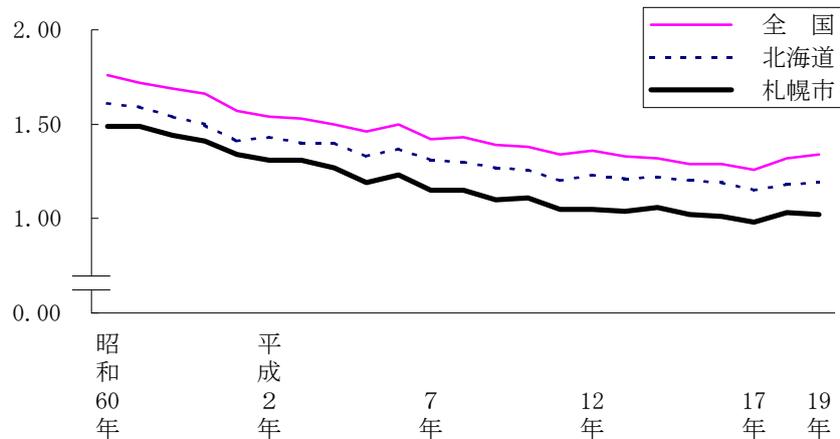
北海道や全国と比較すると、近年では、北海道に対して0.2程度、全国に対しては0.3程度と大きく下回っている。

第2図 出生数の推移（各年中）



注：住民基本台帳による。
 <資料> 市長政策室政策企画部企画課

第3図 合計特殊出生率の推移（各年中）



<資料> 厚生労働省「人口動態調査」、保健福祉局保健所健康企画課

第2表 出生数・合計特殊出生率の推移

年次	出生数 1)	各年中		
		合計	特殊出生率	
		全国	北海道	札幌市 2)
平成15年	14,871	1.29	1.20	1.02
16年	14,750	1.29	1.19	1.01
17年	14,077	1.26	1.15	0.98
18年	14,663	1.32	1.18	1.03
19年	14,460	1.34	1.19	1.02
20年	14,739

注：1) 住民基本台帳による。 2) 比率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> 市長政策室政策企画部企画課、厚生労働省「人口動態調査」、保健福祉局保健所健康企画課

3 札幌市の在学者数

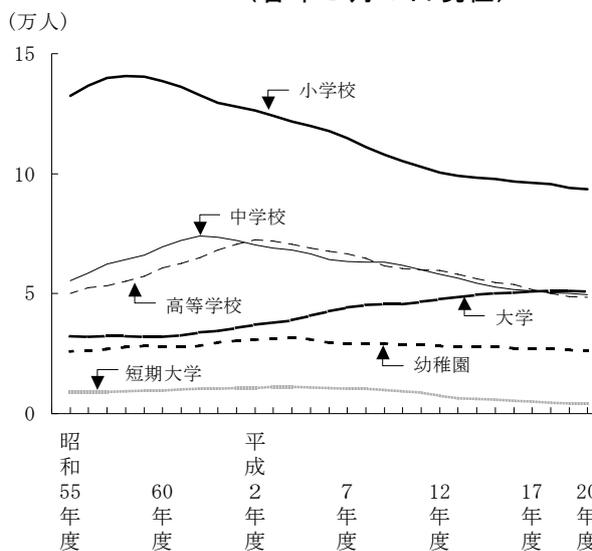
小中学校、高等学校在学者はピーク時のほぼ2/3

「学校基本調査」によると、札幌市内の学校別在学者数は、大学を除いて減少傾向にあり、小学校は昭和58年度（140,794人）、中学校は62年度（73,970人）、高等学校は平成2年度（72,370人）をピークに減少が続いている。

20年度は小学校が93,530人、中学校が49,440人、高等学校が48,555人で、それぞれピーク時の66.4%、66.9%、65.6%と2/3程度となっている。

一方、学校数を見ると、在学者数のピーク時は、小学校が174校、中学校が91校、高等学校が54校であったが、現在では、それぞれ211校、108校、56校と、市街地の拡大等により、ピーク時よりも増加している。

第4図 学校別在学者数の推移
(各年5月1日現在)



注：国立大学法人の設置する学校を含む。
 <資料> 各短期大学、各大学、市長政策室政策企画部企画課「学校基本調査」

第3表 学校数、在学者数の推移

年度及び設置者	各年5月1日現在											
	総数	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校	短期大学	大学	特別支援学校	専修学校	各種学校	
学 校 数												
平成15年度	676	151	213	107	55	1	10	12	12	84	31	
16年度	670	151	210	107	55	1	9	12	13	82	30	
17年度	675	151	211	108	55	1	9	12	13	84	31	
18年度	676	151	211	108	55	1	9	15	13	84	29	
19年度	674	151	211	108	55	1	8	15	13	86	26	
20年度	673	150	211	108	56	1	8	15	13	86	25	
国立 1)	4	—	1	1	—	—	—	2	—	—	—	
道立	39	—	—	—	28	—	—	1	9	1	—	
市立	341	17	209	100	9	1	—	1	4	—	—	
私立等 2)	289	133	1	7	19	—	8	11	—	85	25	
在 学 者 数												
平成15年度	320,038	27,761	97,714	52,649	54,624	441	5,885	50,129	1,294	24,816	4,725	
16年度	317,057	27,124	96,813	51,610	53,693	452	5,460	50,424	1,333	25,008	5,140	
17年度	311,506	26,882	96,167	51,084	51,728	367	5,065	50,783	1,316	24,357	3,757	
18年度	307,477	26,950	95,612	50,230	49,999	283	4,602	51,197	1,349	23,556	3,699	
19年度	302,538	26,639	94,141	50,027	48,823	198	4,371	51,203	1,407	22,253	3,476	
20年度	298,890	26,197	93,530	49,440	48,555	106	4,213	50,855	1,443	21,020	3,531	

注：1) 国立大学法人の設置する学校を含む。 2) 国立病院機構の設置する学校を含む。
 <資料> 各短期大学、各大学、教育委員会高等専門学校事務局、市長政策室政策企画部企画課「学校基本調査」

4 札幌市の児童生徒の発育状況

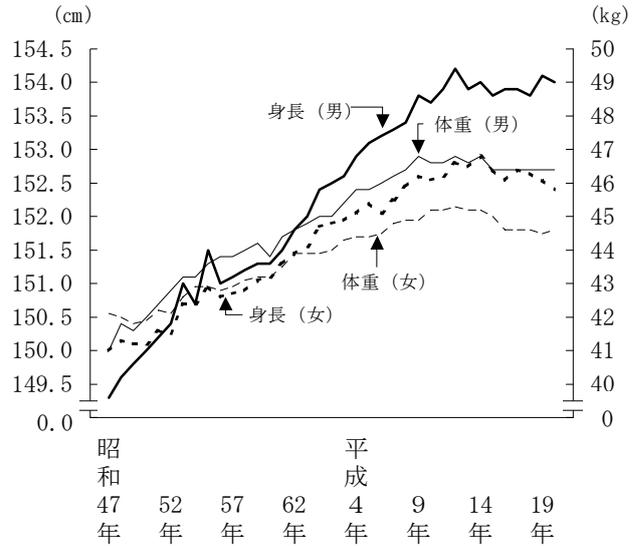
近年の発育状況はほぼ横ばい

市内の市立小・中学校の児童生徒を対象に実施した定期計測検査結果をみると、近年では、11、12歳男子や14歳男女の体重に若干のばらつきがあるものの、身長・体重共にほぼ一定となっている。

12歳生徒の身長・体重の推移をみると、平成12～14年位までは増加傾向を示していたが、それ以降は概ね横ばいとなっていることがわかる。

また、政令指定都市移行直後（昭和47年）の12歳生徒の発育状況をみると、身長（男）149.3cm、身長（女）150.0cm、体重（男）41.0kg、体重（女）42.1kgで、かつては男子よりも女子の発育状況の方がよかったことがわかる。

第5図 12歳生徒の身長・体重の推移



注：年齢は各年4月1日現在における満年齢。調査時期は各年、定期計測検査時（4～6月ごろ）である。
 <資料> 教育委員会学校教育部教育推進課

第4表 児童生徒の発育状況

学校保健法第6条に基づき、市内の市立小・中学校児童生徒を対象に実施した計測別の算術平均である。年齢は各年4月1日現在における満年齢である。調査時期は、各年、定期計測検査時（4～6月ごろ）である。

年次	小学校						中学校			
	6歳		9歳		11歳		12歳		14歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	身						長 (cm)			
平成15年	116.8	116.0	134.0	133.8	145.8	147.2	153.8	152.7	166.4	157.2
16年	116.8	116.0	134.1	133.8	145.9	147.3	153.9	152.7	166.5	157.2
17年	116.9	116.0	134.0	133.8	145.7	147.3	153.9	152.7	166.3	157.0
18年	116.8	116.1	133.9	133.9	146.0	147.3	153.8	152.7	166.3	157.1
19年	116.7	115.8	134.0	134.0	145.8	147.4	154.1	152.7	166.3	157.1
20年	116.8	115.8	134.1	134.1	145.8	147.5	154.0	152.7	166.3	157.1
全国19年	116.6	115.8	133.6	133.5	145.1	146.8	152.5	152.1	165.2	156.7
	体						重 (kg)			
平成15年	21.6	21.1	32.0	30.6	40.4	39.8	46.4	45.0	56.5	50.9
16年	21.5	21.1	31.7	30.5	40.4	39.8	46.1	44.6	56.3	50.6
17年	21.6	21.0	31.6	30.4	40.3	39.7	46.4	44.6	56.1	50.5
18年	21.5	21.0	31.5	30.5	40.3	39.7	46.3	44.6	55.9	50.3
19年	21.4	20.8	31.5	30.5	40.0	39.6	46.1	44.5	56.0	50.3
20年	21.4	20.9	31.6	30.4	39.8	39.8	45.8	44.6	55.7	50.2
全国19年	21.5	21.0	30.7	30.0	38.7	39.1	44.5	44.1	54.7	50.3

<資料> 文部科学省「学校保健統計調査」、教育委員会学校教育部教育推進課

5 札幌市のこどもの生活スタイル

趣味はテレビゲームとCDなどによる音楽鑑賞

平成18年の「社会生活基本調査」から、10～14歳の趣味・娯楽行動別の行動者率（人口に占める行動者の割合）をみよめる。なお、この調査は抽出調査のため全数調査で得られるであろう数値とは誤差があるので注意が必要である。

最も行動者率が高かった趣味・娯楽は、「テレビゲーム、パソコンゲーム」の86.3%である。次いで「CDなどによる音楽鑑賞」の68.2%、「映画鑑賞」の65.1%などとなっており、これらは全国よりも高くなっている。特に「テレビゲーム、パソコンゲーム」「CDなどによる音楽鑑賞」は、頻度「200日以上（週に4日以上）」が3割以上を占め、最も多くなっている。

「テレビゲーム」について他の調査結果をみると、「家計調査」における主な品目別支出金額の都道府県庁所在地別ランキングでは、「テレビゲーム」の購入金額が平成19年は49市中8位、20年は51市中18位となっている。家計調査も抽出調査であり、購入目的もこどものためとは限らないが、この2つの調査結果から、札幌市のこどもはテレビゲーム好きの傾向がうかがえる。

また、同ランキングにおける、主にこどものために支出されると思われる他の品目をみると、「幼児・小学校補習教育」の順位は低い「中学校補習教育」になると高くなるこがわかる。これは、札幌では私立中学受験があまり盛んではないため、小学校のうち塾などには行かず、中学校から高校進学に向けて塾通いをはじめるこがその要因の一つであると考えられる。

第5表 10～14歳の主な趣味・娯楽行動別行動者率

(単位 %)								平成18年
区分	テレビゲーム、パソコンゲーム	C D などによる音楽鑑賞	映画鑑賞	D V D ・ビデオなどによる映画鑑賞	遊園地、動植物園、水族館などの見物	趣味としての読書	スポーツ観覧	
行 動 者 率								
全 国 1)	78.8	63.6	59.3	62.0	50.0	50.6	35.0	
札 幌 市 1)	86.3	68.2	65.1	63.6	58.6	51.5	48.1	
頻 度 別 構 成 比 2)								
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1～4日	1.2	3.7	75.8	26.5	66.8	11.8	54.8	
5～9日	8.3	11.7	13.8	6.0	25.0	3.8	11.8	
10～19日	7.8	17.1	8.9	33.1	8.2	25.6	18.8	
20～39日	7.3	5.8	—	7.3	—	11.2	10.7	
40～99日	22.1	9.0	—	14.9	—	15.2	1.9	
100～199日	19.0	22.6	1.5	8.7	—	20.1	2.0	
200日以上	34.3	30.2	—	3.5	—	12.4	—	

注：1) 頻度「不詳」を含む。 2) 札幌市の値。頻度「不詳」を除く。

<資料> 総務省統計局、市長政策室政策企画部企画課「社会生活基本調査」

第6表 主な品目別支出金額の都道府県庁所在地別ランキング

川崎市、浜松市、堺市、北九州市を含む。（ ）内の数字は、順位である。

(単位 円)							平成20年
区分	幼児・小学校補習教育	中学校補習教育	学習参考教材	テレビゲーム	遊園地入場・乗物代		
札幌市	(44) 5,683	(24) 13,432	(5) 3,168	(18) 3,672	(42) 756		
全 国	9,664	12,787	1,764	3,769	1,824		
1位の市	東京区部 25,186	さいたま市 42,833	水戸市 6,962	徳島市 7,085	水戸市 3,657		
最下位の市	長野市 1,753	北九州市 4,644	北九州市 360	浜松市 1,358	青森市 159		

<資料> 総務省統計局「家計調査」